

# CISSP® REPORT



## CISSP® 取得推進企業インタビュー

# サービスの品質を支える“人財”の育成を積極的に推進 「セキュリティのプロ」として CISSP 資格はパスポート

取材年月 2018年7月

## NRI セキュアテクノロジーズ株式会社

情報セキュリティのフィールドで、高度な知見とスキルに基づいた付加価値の高いソリューションを国内外に提供し続ける、NRI セキュアテクノロジーズ株式会社。「人材こそがサービス品質の礎」とする同社では、セキュリティに精通するプロフェッショナル人材の育成を重要なミッションとして掲げています。その重点施策のひとつが、CISSP 資格の取得推進です。自らも CISSP 資格取得者である代表取締役社長の小田島潤氏に CISSP 資格の価値と取得メリットについて伺いました。

Q.NRI セキュアテクノロジーズが設立された経緯と事業概要についてお聞かせください。

小田島 「インターネット元年」と呼ばれる 1995 年、NRI セキュアテクノロジーズの原型となる FNC サービスが、野村総合研究所（NRI）の社内ベンチャー第 1 号として産声を上げました。当時は Microsoft Windows 95 が登場し、初の商用の Web ブラウザとして Netscape Navigator も発売されるなど、多くの人々がインターネットの利用を開始した年です。当時はインターネットの登場によってさまざまな夢が語られました。その後、社会インフラとしてのインターネットが急速に普及し、ビジネスや生活との関わりが深くなるに連れて、サイバー攻撃や犯罪の懸念も高まってきたのです。そうした脅威から企業や社会を守ることで世の中に貢献できる、そして、新しいビジネスチャンスもあるという考えから、当社の事業が立ち上げられたのです。

インターネットのセキュリティといえばファイアウォールやアンチウィルスの導入が真っ先に思い浮かぶと思いま



NRI セキュアテクノロジーズ株式会社  
代表取締役社長

小田島潤氏

1996 年野村総合研究所に入社。2000 年 NRI セキュアテクノロジーズ株式会社設立と同時に同社へ出向。以降、エンタープライズセキュリティサービス部長、MSS 開発部長、MSS 事業本部本部長を経て、2015 年代表取締役社長に就任。2016 年には野村総合研究所経営役に就任、現在に至る。CISSP 資格取得者。

すが、当社はマネージド型のセキュリティ監視サービスの提供からビジネスを開始しました。その後、セキュリティコンサルティングサービスやセキュリティ診断サービスへ

も事業領域を拡大し、2000年にNRIセキュアテクノロジーズ株式会社として独立、現在に至っています。

Q. セキュリティビジネスにおける貴社の市場優位性について、どのように分析していますか。

小田島 当社の強みのひとつはコンサルティングサービス、マネージドサービス、ソリューションサービスを全て自社で提供している点です。コンサルティングやセキュリティ診断による“可視化”“評価”にとどまらず、24時間365日体制のマネージドセキュリティサービスや、セキュアファイル交換サービス「クリプト便」、特権ID管理ソリューション「SecureCube / Access Check」など、独自のサービスを開発・提供することで、お客様のセキュリティ強化をご支援しています。これは他社にない特異性だと考えています。

現在、多くのセキュリティベンダーがビジネスを展開していますが、**私たちが勝負をしているのは、セキュリティサービスの“品質”です。品質とは、社員一人ひとりのスキルや経験に支えられているものです。**社員のスキルを客観的な指標として外部に示すには、第三者資格の取得が非常に重要となります。

そうしたことから、当社は各種資格の取得、なかでも国内外の情報セキュリティ関連資格の取得に力を入れており、社員の資格取得にあたって必要な能力開発や研修費用は原則会社が用意するなど、教育環境の整備に努めてきました。その成果もあって、社員は“セキュリティのプロフェッショナル”として資格取得の必要性を十分に理解しており、自発的に自己研鑽や資格取得に取り組もうとする文化が醸成されています。

そもそもNRIグループ自体が社員を“人財”と位置づけ、プロフェッショナル人材の育成とその能力を最大限発揮し

てもらおうための仕組みや環境作りに力を入れてきました。NRIセキュアテクノロジーズでもOJTやOff-JTによる教育制度の整備だけでなく、**自己研鑽のための時間として、一人あたり年間168時間以上を研修の受講や自己学習に充てるように規定しています。**これは1ヶ月にならせば2日間に相当しますが、毎月その2日間を使って自己のスキルアップに努めることをミッションとして定めています。

Q. 業務との兼ね合いもある中で、168時間もの時間をどのように確保しているのでしょうか。

小田島 NRIグループには人材育成・評価について「C&A(Challenge & Act)」と呼ばれる制度があり、能力開発と業績評価のために、上司との面談を通じて半期ごとに個人別の目標を明確化し、その目標の達成度合いを都度、確認・評価しています。その中で、168時間の自己研鑽目標を具体的にどのような行動をとることで達成していくのか、計画表を作成します。例えば「CISSP資格の研修が7月9日から13日に開催されるので受講する」といった行動計画を立てたら、1日8時間を5日間、合計40時間と記入します。このように行動プランを積み上げ、計画時点で168時間を確保していくわけです。そして、半期ごとに上司と面談を行い、計画通りに進んでいるのか、実績をチェックしています。

幅広い知識を体系付けながら網羅的に習得できるCISSP資格

Q. 社員のスキルアップの一環として、CISSP資格の取得にも熱心に取り組まれていますね。

小田島 日本の国家資格である「情報処理技術者資格」の

## プロフェッショナルの育成を支える人材育成の仕組み

### ■プロフェッショナルを育成するために

「人」は、NRIグループの経営資源の中で最も重要なものと位置づけ、すべての付加価値の源泉と考えている。志の高い人材の能力を開花させ、現場で成果につなげていけるような「人財」に育成していくことが、NRIグループの人材育成だとしている。NRIグループ社員のプロフェッショナルとしての活躍は、人材育成の仕組みによって支えられている。

### ■プロフェッショナルの力を備える仕組み

プロフェッショナルの力を備えるためには、

【1】OJT(On the Job Training)

【2】研修

【3】自己研鑽

の3つが、さまざまな局面で有機的に結合していくことが重要である。これらのうちの1つでも欠けてしまうと、プロフェッショナルとして思うような成長ができないと考え、3つの要素は、プロフェッショナル育成の土台となっていると捉えている。



ほか、数十種類の国内外推奨資格を設定していますが、創業当時からグローバルでのビジネス展開を視野に入れていたこともあり、国際的に認定されているセキュリティ資格として CISSP 資格に着目していました。私自身も 2000 年の会社設立に伴い NRI から当社へ異動をした際に、すぐに CISSP 資格を取得しました。

当社で CISSP 資格を評価している点としては、CBK (Common Body of Knowledge : 共通知識分野) 8 ドメインを学ぶことで、セキュリティに関する知識を網羅的かつ体系的に習得できることです。特定の技術分野だけに偏ってはいは、日々、高度化・複雑化を続けるセキュリティの脅威には対処できません。つまり、サーバーやネットワークから PC、スマートフォンまで、セキュリティ知識と防御のポイントを幅広く理解する必要があります。そうした観点から CISSP 資格の CBK はバランスよく配分されているので、幅広く必要な知識を習得できます。また、自分自身の得意な分野と苦手な分野が明確になることもメリットです。例えば、暗号理論は熟知しているけれども、実際にシステムを構築するのは不得手であるとか、逆にセキュリティシステムの構築では経験を積み上げていたつもりが、理論は弱いとか、自分の弱点を再認識するのも有効です。

Q. セキュリティのプロとして、幅広い知識の習得は不可欠というわけですね。

小田島 当社では、“T 型人材” と呼ばれるような特定の分野を深く極めながらも、その他の分野についても幅広い知見を持った人材の育成を目指しています。セキュリティは取り扱うべき領域がますます広がっており、全方位での知識が求められますが、その中でも自分が強みにできる領域を社員が自ら見つけ出し、それをさらに深掘りして欲しい

と考えています。そのためにも 5 年間ごとに監視や診断サービス、コンサルタント、ソフトウェア開発と、社員のジョブローテーションを行っています。このような OJT による取り組みに加え、Off-JT に該当するものがセキュリティ資格の取得であり、**中でも体系的に学習できる CISSP 資格は T 型人材の育成に有効であると感じています。**

このほかにも、CISSP 資格は学習を継続しなければ資格を維持できないことも評価ポイントですね。資格を取得すればそれで終わりではなく、常にスキルを研鑽していくためには最新動向について学習を続けていかなければなりません。

### CISSP 資格はセキュリティのパスポート、担当者全員の取得を目指す

Q. CISSP 資格の取得による、ビジネス上の効果についてお聞かせください。

小田島 近年、グローバルのセキュリティビジネスでは、CISSP 資格取得者がプロジェクトに参加していることが条件とされているケースが増えています。そうした観点では CISSP 資格の取得は明らかなメリットですね。また、最近では、**日本でも省庁の入札要件や企業の要件定義書にも CISSP 資格取得者の有無が条件として定められ始めています。** 資格取得者が多ければ多いほど複数の案件に対応できますし、そもそも取得者がいなければ案件自体に参加できません。

実際、CISSP 資格は国際的に非常に認知度が高い資格であり、海外の顧客や取引相手との商談等でも、こちらが CISSP 資格取得者であることが分かると、先方は安心するのか、話もスムーズに進みますね。“セキュリティが分かっ

## 人材開発の取り組み

### 168 時間

年間 168 時間を目標に、業務時間内として研修・自己研鑽を行うことを求めている。社員と部室長で具体的に話し合い、計画・結果確認を行っている。

研修受講

SANS

Berlitz 等の英会話

### 内外の研修プログラム

NRI のさまざまな研修プログラムに加え、NRI セキュア独自で設定・推奨する専門的な研修を受講が可能。資格取得・維持費用を会社が負担する制度もあり。

例

資格取得・維持費用

CISSP

情報処理安全確保支援士

### ローテーション

セキュリティに関する幅広いスキルと知見を得るため、本部内だけでなく、本部間での人事異動(ローテーション)を積極的に行っている。

カンファレンス参加

RSA Conference

BlackHat U.S.A.

ていることの国際証明”と言えるかもしれません。

Q. 今後、CISSP 資格取得者数をどのくらいまで増やしていきたいとお考えですか。

小田島 現在、当社では 38 名の CISSP 資格取得者を擁しています。個人の志向や所属部署によって技術を先に磨くか、ジェネラリストとして高みを目指すかの順序は異なりますが、今後、新卒／中途入社社員には必須の資格として取得してほしいと考えています。毎年 30 名ほどの新卒／中途社員を採用していますが、順当にいけば毎年 CISSP 資格取得者が増える計算になりますね。

とはいえ、現実的には日々の業務との兼ね合いもあって、受験できる人数も限られてしまうのですが、将来的には NRI セキュアテクノロジーズの一員として“持っている当たり前”の資格として、セキュリティビジネスに関わる社員は 100%の取得を目指していきたいと考えています。

## CISSP 資格を武器にグローバルビジネスにも積極的に踏み出す

Q. 今後のビジネス展望についてお聞かせください。

小田島 周知の通り、日本は少子高齢化の進展によって大きな経済成長が見込めない状況です。東京オリンピック／パラリンピック開催の 2020 年以降、経済成長もピークアウトしていくというのが大方の見方です。そうした状況においてもセキュリティに関するニーズは確実に広がっていくと予想されますが、企業としてさらなる成長を遂げていくためには、グローバル市場にも事業を展開していかなければなりません。当社も北米支社を設立し、海外に進出する日本企業をはじめ、世界各国の企業のセキュリティ対策を支援していますが、グローバルビジネスをもっと広げていくことは経営課題です。そうした海外展開を推進していくにあたり、CISSP 資格はさらに有効性を増していくと期待しています。

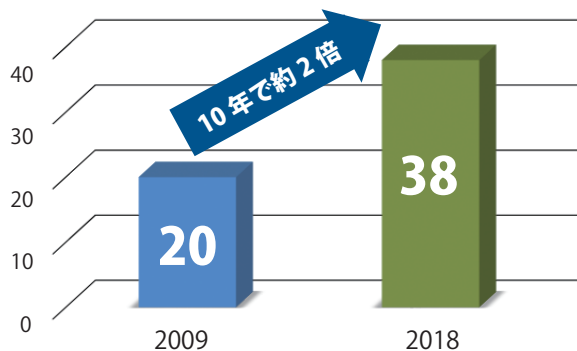
一方、最近ではインターネットへの常時接続機能を装備した「コネクテッド・カー」の登場や、IoT (Internet of Things) 等のセンサー技術が製造工場の制御系システムに導入されはじめ、従来の IT の範疇にはとどまらないセキュリティ対策に関する案件が急増しています。保護すべき領域がどんどん広がっていく中で、最新のセキュリティにも

適応できる CISSP 資格は、セキュリティに携わるものにとって“パスポート”とも呼べるものでしょう。グローバル市場へ、そして新しいセキュリティ市場へと挑んでいくにあたり、今後も社員の CISSP 資格の取得を積極的に推進していきたいと考えています。一方、当社は CISSP 資格を目指すトレーニングビジネスも展開しており、日本の CISSP 資格取得者の増加、ひいては世界のさらなるセキュリティ強化に貢献していきたいと考えています。

## CISSP 取得者数推移と マネージャー層の取得率

### CISSP 取得者数推移

10 年で CISSP 取得者が約 2 倍に。  
社員の 1 割が CISSP 取得者。



### マネージャー層の取得率

マネージャー層の CISSP 取得率は  
半数を占める。

